

男性の化粧行動に隠された男らしさ

—男性はなぜ化粧をするのか—

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
家族機能・社会臨床クラスター
片岡 曜

現代社会において男性の装いや振る舞いは著しく変化している。男性的男性に比べ女性的・両性的男性は外見にも関心を抱いてきており、男性のジェンダー役割は女性の役割とされていた部分も含むようになってきていると捉えられる。しかし、男性の装い行動は女性の装い行動と同じものなのだろうか。本稿では、「男性は女性化しているのではなく、従来の男性性も維持しながら男性独自の装い行動を切り開こうとしている」と考える立場に立ち、男性は本当に女性化しているのかを検討する。

男性の化粧行動と男性の女性化・男性の化粧行動と男性性の関連性を捉えるため男性（8名）へのインタビュー調査（調査1）と女性（37名）への質問紙調査（調査2）を行った。

結果、調査1では男性の化粧行動には「男性社会から外れることへの恐怖心」からくる化粧行動の選択しにくさや女性視線を意識した装い行動など、男性独自の意識が存在していることが明らかとなった。現代の男性は化粧行動を通じて多様な自己表現を実現しようとしており、男性の装いに関する少ない情報を女性や雑誌などから収集していた。調査2では女性は男性が化粧によって化けることを望まず、男性の装いに清潔感とナチュラル感を重視していることが明らかとなった。特に化粧行動の中でもメーキャップに強い拒否反応があった。この拒否反応は、戦後女性が独占していた化粧という市場に男性が参入することで、男女が比較対象となり女性への美の基準や見方が厳しくなることを避けたいという意思の表れといえる。

調査1と2の結果から男と女が持つ「外見における男性のあるべき姿」が類似していることがわかった。なぜなら、男性は過去に得た女性にとっての「理想の男性像」から大きな影響を受けて現在の（広義の）装い行動を選択していたからである。しかし、女性が求める「理想の男性像」の背景には化粧によって女性が実現し独占していた地位や評価を保守しようという意図があった。また、男性は女性からの影響に加え、男性（社会）からのピアプレッシャーが化粧行動による自由で多様な自己表現を一層困難にしていた。しかし、これこそが男性の化粧行動の独自性であり「男性らしさ」でもあった。

つまり、男性の化粧を行動面からみれば男性は女性化しているように見受けられるが、精神的側面に及ぼす影響には男らしさがあった。男性は女性を見本として男性の化粧行動という未知の分野を開拓し、自由な自己表現をしようとしていた。現代こそ固定されていた「男らしさ」をより遊びのある自由な「男らしさ」へ幅が広がる過渡期だといえる。